

## 7/23～25「先端研院生プロジェクト 2022 スタートアップ報告会」資料

### 院生プロジェクト「家庭内・親族間等における人権問題研究会」作成

#### ■研究会の概要

この研究会は、家族や親族といった、集団としての「家」において、その成員間に起こる、権力の行使、加害・被害といった問題について、考察していこうというものです。この社会には、家の成員は互いに信頼し合い、助け合うべきであるという規範があります。また成員の入れ替わりが少なく閉鎖的で、家の中で起こったことについては、部外者は干渉しないという規範もあります。他方で、成員の年齢や立場は様々であり、代表的には親と幼い子のよう、ある成員がある成員に支配的な影響力を有している場合があります。これは、(全ての成員がそのような志向を持っているとはできませんが) 家はその集団の安定した状態での存続を志向し、望ましいと考える後継者・成員を育てる機能を有していることと関わるでしょう(そのような家が有する志向が端的に現れている例として、家の代替わり、つまり相続時の慣例や関連する法律が挙げられます)。この研究会が関心を向けるのは、そのような「信頼関係に基づくとされながら、成員間の明確な序列と別の規範が存在する、閉鎖的」な「家」という集団です。そのような特徴を持つ集団内において、立場や規範を利用した権力の行使や、加害／被害が起こった場合、被害を受けた側が、外部にそのことを訴えるのは困難です。また、被害を受けた側が、家における少数派や力の弱い立場にあるものだった場合、そのような訴えは、家内での孤立を引き起こし得ます。多くの場合、生まれながらに、そして生涯を通じて所属することになる家という集団内でその様に孤立することは、被害を受けたことそのものと同じく、その人に深刻な影響を及ぼすでしょう。

#### ■今年度の予定

個々の事例や、権力の行使・被害を受けた人の語りから、概要で記した様な家の特徴や、家が内在する権力性についての考察を進めていきます。とりわけ今年度は、インタビューを行い、当事者が被害から回復しようとする営みや、それを阻害する要因を聞くことで、家やその権力性が人々にどのような影響力を与えてきたのかを考察することを目標にしています。また、家に関連する文献の講読を行います。初回は『結婚差別の社会学』(齋藤直子)を講読します。

#### ■読んでくださった皆様へ

申請時、意気込んで、また急いで書類を作成し、「人権問題」という言葉を入れてしまったのですが、今になって別の言葉が良かったと思ったりしています。真面目に、堅苦しくな

●ご連絡は中井まで→[gr0476ex@ed.ritsumei.ac.jp](mailto:gr0476ex@ed.ritsumei.ac.jp)

りすぎずやっていくつもりですので、関心がおありでしたらお気軽にお声かけください。

●ご連絡は中井まで→[gr0476ex@ed.ritsumei.ac.jp](mailto:gr0476ex@ed.ritsumei.ac.jp)